

群 教 セ	G15 - 01
	平27.256集
	中・キャリア

平成27年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社 群馬銀行

長期社会体験研修員 井野 千春

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社群馬銀行は、前橋市元総社町に本店を置く、昭和7年9月に設立された金融機関である。国内150店舗（県内105、県外45）を拠点とし、地元地域との深い関わり、お客さまとの信頼関係を重視した地方銀行として発展している。平成25年4月から3年間の中期経営計画（Vプラン～価値提案銀行への進化～）の最終年度を迎え、本計画の目指す企業像「お客さまへ価値ある提案をしていく、地域のリーディングバンク」の実現に向けて諸施策を展開している。

2 研修先での主な研修内容

(1) 営業1課・2課、総務課研修【4月～9月】（研修場所：本店営業部）

お客さまご案内係では、来店したお客さまへのATM操作案内や各種伝票等への記入説明等の対応を行った。また、預金後方業務では現金入出金機の立ち合いや各種伝票・帳票整理、出納業務では現金の搬送や再鑑、預かり金融資産後方業務では商品販売用資料等の補充や資料作成等を行った。

(2) 融資課研修【10月～12月】（研修場所：本店営業部）

融資課では、主に特定当座貸越の伝票起票や書類送付書等の作成を行った。また、各種ローン業務では書類確認、外国為替業務では外貨両替業務、貸金庫受付業務ではお客さまへの対応を行った。

(3) 渉外課研修【1月～3月】（研修場所：本店営業部）

取引先に関する資料や郵便物等の作成、個人や企業等の取引先へ行員と帯同訪問を行った。

(4) 行内研修【4月～1月】（研修場所：研修所等）

入行時研修、総合職1年目研修、新任係長・主任研修、新任代理研修、新任次課長・役研修、支店長代理マネジメント研修、女性リーダー育成研修等、様々な階層別研修や業務別研修に参加した。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

中学校のキャリア教育で生徒に身に付けさせたい「望ましい勤労観・職業観の形成」に視点をあて、銀行での研修を通して学んだ「中学生に伝えたい内容」を中心にキャリア教育リーフレットを作成した。生徒が職業や働くことに興味や関心を持ち、今が大事であると感じ取ることができるよう工夫した。銀行員へのインタビューを通して「働くことの魅力」を、研修を通して感じた「中学生である今から身に付けておきたいこと」をメッセージとして掲載した。

(2) 実践の概要

題材名：「発見！わたしの職場体験」（総合的な学習の時間） 対象：第2学年 115名

職場体験を通してたくさんのお客さまのことを発見して学ばせ、学んだことを今後の学校生活や進路に繋げさせるために、職場体験の前と後に授業実践を2回行った。

授業実践Ⅰ（職場体験前）では、「充実した職場体験にするために、自分なりの目標やめあてを考えよう」をテーマに、教師が銀行で体験した様子を「先生の職場体験」と題して説明することや、クイズを取り入れることで、職場体験で見たり学んだりしてくる視点を示した。

授業実践Ⅱ（職場体験後）では、「職場体験を通して学んだことをもとに、これからの中学校生活や自分の進路、将来の生き方について考えよう」をテーマに、銀行員や高校教師へのインタビューを取り入れることで、職業観や勤労観を捉えさせ、自分の進路について考えさせた。

II 研修成果

1 銀行業務研修について

本店営業部では、銀行業務全般にわたり様々な業務を行った。その中で、銀行は「預金」「融資」「為替」だけでなく、お客さまへの資産運用の提案や地域貢献活動等にも積極的に取り組んでおり、銀行業務の多様さや幅広さを学び、お客さまの大切な財産を取り扱う責任の重さを実感した。

そして、銀行が最も大切にしているのはお客さまからの信用や信頼である。そのために、「報告・連絡・相談」を密に取り、事務的なミスを出さないこと、コンプライアンスや顧客情報等の保護・管理の徹底、親切で丁寧な対応や、笑顔で心を込めた挨拶等を銀行全体で実施していることを学んだ。

2 行内研修について

研修制度の中心には職場内研修（OJT）が位置付けられ、日常業務を通して銀行員としての知識や技能、態度を培い、上司と部下が共に学び合い、成長できる環境作りに取り組んでいる。また、新入行員入行時研修から新任次課長・役研修まで様々な行内研修に参加し、人材育成の重要性を実感した。

若手行員の研修では人事部による面接があることや、新入行員へ先輩行員がメンターとして付くなど、様々なサポート体制が図られており、学校の若手教員に対するサポート体制の重要性を感じた。

役席等の研修ではコーチングやマネジメントといった、上司としての役割と部下の指導や育成に重点が置かれており、ミドルリーダーやリーダーを育てる意識は学校現場と同様であることが分かった。

3 企業における組織力向上の取組について

行内研修では、若手行員は上司から学ぶ姿勢を、上司は部下を指導や育成する姿勢に重点を置き、その中で互いにコミュニケーションを図ることの大切さを学んでいる。また、行員の満足がお客さまへのサービス向上に繋がるという考えから、行員が満足できる環境作り組織として取り組んでいる。

銀行の行員教育の取組は、学校が組織として円滑に機能するために、参考にできる部分があると感じた。また、銀行のワーク・ライフ・バランスの考え方は、自分自身の仕事へ取り組む姿勢や仕事の進め方、効率化を進める上で参考になった。

4 キャリア教育実践について

教師の銀行での体験をもとに職業や働くことについて理解させ、職場体験に向けた目標やめあてを考えさせたことで、職場体験への意識を高めさせ、充実した体験活動に繋げることができた。

職場体験後には、感想をもとにした生徒同士の意見交流により、職業や働くことへの理解を深めさせることができた。また、銀行員や高校教師からのインタビューやメッセージを取り入れたことで、生徒に今後の中学校生活の過ごし方や自分の進路について考えさせ、目標を持たせることができた。

今後も、学習内容を精選し、生徒に考えさせたいことや身に付けさせたいことを明確にするとともに、学習活動における具体的な手立てや発問等を工夫するなど、授業実践に取り組んでいきたい。

III まとめ

民間企業での勤務経験を持たない私にとって、銀行業務や行内研修からは初めて学ぶことが多く、新鮮な気持ちで研修に取り組ませていただいた。銀行はお客さまからの信用や信頼を最も大事にし、お客さまに満足していただける銀行を目指して、銀行全体で様々な取組や工夫をしている。そして、そのために人材育成にも積極的に取り組んでいる。上司の方から、「銀行も学校もやっていることは同じ。銀行はお客さまのために、学校は生徒のためになることを考え、一生懸命仕事をしている。」というお話をいただいた。多くの方々に出会い、学校現場だけでは体験できない貴重な経験をさせていただいたことに感謝し、研修で得た成果を生徒のために、学校組織のために生かしていきたい。

（担当指導主事 大野 慎一郎）